

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200238		
法人名	医療法人社団明佑会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	熊本県八代市渡町1717番地		
自己評価作成日	平成30年2月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々が見える広いフロアで自然の四季を感じて頂きながら、入居者様のペースに合わせた生活を職員と共にしています。春には花見、山菜取り、秋には紅葉見学や妙見祭の飾り馬、ガメの来所もありお祭り気分を味わって頂き、畑での芋ほり大会では園児と一緒に収穫を行いました。から芋はおやつに大根は切干、漬物を作りみんなでおいしく食べました。また、医療面も併設するクリニックの医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、介護と医療連携をとり安全で安心した生活を送って頂けるように支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然を満喫できる環境と医療・福祉施設が集中する一角にあるホームは管理者を中心とした意思疎通の良い関係が築かれ、運営者の思いを全員が共有している。“手と手を取り合う 家族のような愛と献身の精神を信条とします”とする理念の実践は大往生を支援した事例に表れている。身体介護が増える等重度化傾向もある中で目標として「寄り添うケア」を掲げながら、職員の持つ得意分野の発揮(誕生日のケーキ作り等)は入居者の笑顔を引き出し、地域交流室を利用した個展の開催等これまで培ってきた地域住民との関係に一層の深まりを見せている。協力医療機関や看護師の強力なバックアップ体制が整備されており、安心した生活環境にあり、本人や家族の思いにも寄り添い実現させている。今後も地域との交流を深め、地域福祉の啓発活動、認知症ケア推進を担っていられるであろうと大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週1回月曜日には必ず職員で理念を唱和し、意識を高めている。笑顔で挨拶や声掛けを積極的に行っている。本年度看取りを行い、ご家族様より理念にあるように家族の様に接して頂きありがとうございましたと労いの言葉を頂きました。	法人の理念をホームも理念として掲げ唱和による意識強化や、“寄り添うケア”を目標として掲げケア統一を図っている。職員の入れ替わりもあり、思いやつのケアは難しい状況にあると認識し、入居者に寄り添いゆったりとして関わっているかを検証している。理念の一つ“手と手を取り合う 家族のような愛と献身の精神…”はターミナルケアの実践の中に表れている。ほとんどが車いすという重度化傾向にある中で、職員の得意分野を發揮した生活が理念の具体化であることが確認できるホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回資源回収に参加し、地域の方との交流を深めている。祭りごとには入居者様と一緒に参加したり、職員も近所のコンビニや商店に出かけ利用している。隣接する清流高校の生徒さんからもフラワーアレンジメントの花を頂いたり奉仕作業も行った。	地域の中のホームとして高田祭りへ協賛したり、地域資源のごみ分別手伝い、ホーム周辺のごみ拾い、除草作業等自主的に行っている。隣接高校や保育園児との芋ほり等継続した交流の他、資源回収で知り合った住民とのつながりがホームの地域交流室での個展開催に繋げる等、これまでの地域との関係が一層深まりを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流で、絵画展をし、地域の方、同敷地内の有料老人ホーム、通所リハビリテーション利用者様等多数の見学があり、利用者様との交流もありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に行い、活動状況の報告や意見交換を行っている。記録を残し職員も周知する事でサービス向上に活かせるよう努めている。事例発表を行ったり、嚙下についての研修会には実際にトロミの飲み物を体験しました。	定期的開催する運営推進会議は、入居者の4状態変化やインシデント・アクシデント、活動や地域活動を報告。認知症ケア、特に医療的な面での啓発等認知症ケアや医療的な部分の啓発として生かされ、食事形態についてとり入り飲み物の体験等工夫して開催している。運営推進会議の中でDVDを通じたホームでの生活状況の発信により、このホームの特徴を開示する機会としていただくことが望まれる。	今後も、地域づくりの拠点としての役割を担うホームであり、地域の課題や家族の悩み等を共有する場として、オープンなやりとりができるような会議とされることを大いに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からはメールで情報を頂き、運営推進会議にも参加され、事例、ケアサービスに何かとアドバイスを頂いています。また担当の方から医療連携について質問があり互いに理解を深めた。	行政担当部署からのメールでの情報リサーチ(研修など)や、今年度は厚労省の監査を受けている。土曜日開催にもかかわらず、運営推進会議に毎回参加される行政や地域包括支援センター職員に敬意を表したい。また、法人の50周年式典等にも参加を得る等良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。入居者の方の訴えが同時にあった場合は「ちょっと待ってください」「ここにおいて下さい」等の言葉での行動制限は聞かれることもあり、今後も職員の意識付けを行っていききたい。	ホームでは“寄り添うケア”を徹底し、車いす利用であっても座りっぱなしにしないケアや、職員の言葉の中での「ちょっとまって」等も行動制限として捉え、職員同士が注意喚起している。また、報道により職員のストレス等についての話し合いや、外部研修に参加した職員の情報を共有し、かかわりのスピードや声のトーン等も注意し合っている。入居者の「帰りたい」等個々の状況を把握し随時対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し理解をしている。ミーティングでも取り上げ、言葉かけにも注意を払っていくよう職員同士で意識付けしている。入居者様同士の関係にも気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解に努め必要に応じて地域包括支援センターと連携を図り、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。不安や疑問点についても納得して頂けるよう説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	接遇向上委員会より、入居者様にアンケートを行い苦情を受け入れる体制を作っている。家族訪問時も含め個人的に尋ね意見の表出に努めている。	家族の訪問時や電話等により近況を報告しながら、要望等を聞き取る等ホーム側から家族に依頼する等家族とのコミュニケーションを図っている。今年度はアンケートにより職員の接遇も含め調査を行いサービス向上に反映させている。意見箱は以前は置かれていたが現在は設置していない。意見箱は訪問者に対するホームの姿勢につながると思われる、利用の有無にかかわらず今一度検討していただきたい。	ご家族から感謝の言葉が寄せられる等、現状に満足と信頼を得たホームある事が窺われる。家族の中には預けているということでの遠慮や思っても言われぬ家族の思いにも寄り添い、忌憚のない意見や提案をケアサービスに反映いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の理事長を交えたケアミーティング、月1回のミーティングや日々の申し送りを通じて自由に意見を述べる機会を設け、代表と職員全員で検討し、提案を反映させている。レイアウト変更も利用者様の観察を行い職員の意見を反映させた。	毎週のミーティングや毎月ホームでのミーティング、委員会活動等により職員の意見等を運営に反映させている。日々の申し送りによる席の配置換え等管理者と職員とが気軽に話し合える場もあり、意思疎通の良い関係が築かれている。夜勤時の特変等ひとつの事だけにとらわれず、多方面からの判断が必要であると常に気づきを持ったケアに徹している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	グループホーム部会の研修には勤務者以外参加するようにしている。入社前に見学を通し、仕事内容の説明をして、個々の職場環境を知ってもらっている。シフト作成前は個人の都合を聞き無理く働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会の研修には勤務者以外は参加し、交流をしている。親睦会にも四名参加した。代表は職員に研修情報を提供し参加するよう促すことで職員が力を伸ばせるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を受け入れる様進める事で、同業者との交流する機会を作っている。得た知識や情報を内部で話せる機会を作ることでサービスの質が向上するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い本人様から書き取りが困難な場合はご家族様から聞き取りプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に同席して頂きご家族様の気持ちを汲み取るような姿勢で傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时に現在の状況を伺い選択肢がいろいろあることを伝えながら説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様の訪問時には近況報告を行っている。体調については必要があれば主治医へ連絡し現状の報告をしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の心配事を共に考えてアドバイスをを行い、信頼関係を大切にしている。又本人状態の変化がある時は必ず連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	孤立した入居者がいないようにレクレーションを行ったり、職員が間に入り一緒に会話を持つようにしている。近くの神社への初詣、墓参りにも同行した。	家族や元同僚、近所(自宅)等からの訪問、隣接施設を利用者同士行き来しながら友人関係を保つ等これまでの関係性を継続させている。また、初詣、墓参りや地域の祭り見学他、ホームでも四季折々の行事を行うことで見当識としている。七五三や成人式にホーム来てくれる親族、不在者投票等社会性の継続も視野に家族の協力も得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションを大切にし、孤立しない様職員が間に入り、一緒に作業をしたり、会話を楽しんだりできるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様がおられ、現在入院中ですが、時々訪問し、いつでも気軽に尋ねて頂くようお願いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「何をしましょう。」「〇〇をしましょうか。」と本人に確認をして頂き、出来るだけ本人様の意向に沿えるようにしている。スタッフ側の都合で物事を判断しないようにしている。	職員は普段の会話や寄り添いの中で希望などを引き出している。入居者が選択できるような声かけ等自己決定できる場を作っている。入居者の行きたいとする思いに家族の協力を得たり、入居者の声を家族に代言しながら希望に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前担当されていたケアマネジャーに情報を頂いたり、ご家族様、本人様にもお聞きし把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定、食事量、水分量のチェックを行い本人の状態を確認、把握している。週2回PTによるリハビリも継続している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、朝夕の申し送り時を気づき等の話し合いの場とし全員で意見、アイデアを出し合っている。ご家族様の訪問時にも現状を報告し意見を聞いている。食事が入らなくなった時にはSTよりアドバイスを頂き回復された。	日々の申し送りにより職員の観察結果を共有している。新たなプランを作成するにあたり、原案を提示し職員の意見を聞き取るとともに、本人・家族に説明し合意を得て新しいプランを作成している。半年毎のモニタリングや状態変化時の見直し等現状に即したプランが作成されている。毎週課題の検討・評価とともに院長の指導やSTの指導等法人全体がチームとして関わり、具体的かつ詳細なプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が情報を共有できるようにノートを作り、出勤したら先ず最初に目を通しサインをするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	八代事業所での合同運動会を開催し参加した。整骨院(電気治療、マッサージ)は継続利用されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをお願いしたり、地域の行事に参加したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内のクリニックにて2週に1回定期受診を行っている。本人、ご家族の専門医への受診希望があれば主治医に伝え紹介状を書いていただき受診をされている。受診時には必ず職員が立ち会い生活の様子、病状等を伝えている。	家族の了解のもと同敷地内にある法人クリニックをかかりつけ医として、定期往診である。専門医受診等家族からの相談があれば主治医と連携を図り適切な医療を支援している。歯科は、希望があれば訪問歯科を利用し、義歯調整や口腔ケアなどが行われている。職員による日々の健康管理とともに、隣接の看護師も毎朝ホームを訪れ、夜勤者からの報告を受けたり、健康チェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か状態に異常が見られる場合は速やかにクリニックへ連絡を行い、看護師に診てもらっている。必要があれば看護師が主治医へ連絡し受診や処置をしてもらい説明、注意点を聞き、引き継ぎ共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に連携シートを渡しホームでの様子状況を伝えている。定期的な面会や退院時カンファレンスに参加し、生活上の注意点、病状について把握するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年度は1名の看取りを経験しました。本人の日々の状態、変化等ご家族様へ報告。来所時は主治医より説明をして頂き介護、看護、医療と連携を行った。看取り後にご家族様より感謝のお手紙を頂き信頼関係の大切さを感じました。	重度化・終末期支援については入居時に最終まで支援することや、医療と連携していることを伝えている。本年度は主治医の指示のもと、家族の協力も得ながら103歳という超高齢の入居者の大往生を出来る限り支援している。ホーム内外の看取りケア研修会への参加や、法人看護部長により指導を受けている。	ホームで最期までと希望される家族も、入居者の心身の状況によって気持ちも変化すると受け止め、その時々で確認を行っている。今後も入居者・家族の思いに沿いながら、最良の支援に努められるものと大いに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や勉強会で実践的な訓練を行い、対応を身につけています。定例会時に急変の対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を設け会議を行っており、定期的に避難訓練を実施している。備蓄品も三日分は準備している。運営推進会議で地域の避難場所の確認も行った。	災害対策については、委員会を中心に会議や訓練を計画し(今年は3月と11月に敷地内の合同)実施している。地域の避難場所は、運営推進会議の中で確認し、日常の安全管理はシートを使って点検しており、備蓄についても水やレトルト食品・ガスコンロ、排泄用品などリストを貼り、全職員への周知徹底が図られている。	今後は地域との協力体制を地域代表者(自治会長など)へ伝えたり、運営推進会議の中やホーム単独での訓練の実施、自然災害についても机上を含め検討されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話時は、本人様の生活歴を尊重し傾聴するよう心がけ、自尊心やプライバシーを害しない様努めています。トイレ誘導時は穏やかな声掛けを行い自然にトイレへ促すようにし、失敗時でも「大丈夫ですよ」と安心感を与え静かに対応している。	入居者への対応や言葉かけは優しさを大切にすることを共有している。失敗のない排泄支援に努めているが、もし、失敗があっても尊厳を失われない安心感を与えるような声掛けを行っている。呼称は家族からの情報や反応などにより、苗字や名前など個々に応じて検討している。入居者の希望により同性介助とし、中にはシャンプーを得意とする男性職員の支援を要望される方もおられる。職員の守秘義務については、入居者の個人情報を含め、入職時や会議などの中で指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で希望、楽しみなど聞き逃さないようにし、出来る事は「一緒にやってみましょう」と声掛けし自己決定できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝から利用者様の体調、気分を把握し女性入居者様は家事動作(洗濯干し、掃除等)、男性入居者は新聞等促し、在宅のような気分で過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意見を聞き、着る服を選んで頂いています。爪切りや髭剃り等も声掛けを行い、出来ない方は介助を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をし、お盆拭きや台拭きを行っている。お菓子やケーキ作り等も手伝って頂いています。梅干し作り、畑で採れた大根を利用し切干大根、漬物を作り食事の時食べました。	献立は法人の管理栄養士が作成したものを使用し、専任者を中心に調理している。個々の嚥下に応じ、主・副食、汁物、デザートそれぞれをキザミ・ミキサー、普通食、一人でつかめるようおにぎり等細やかに対応し、定期的に見直すとともに、トロミを運営推進会議で体験してもらっている。入居者が普段の調理に関わる機会は少ないが、おやつ作りや梅干し・梅酒、切り干し大根作りなど一緒に取り組んでおり、材料の梅や大根は職員が持ち寄り、収穫した野菜を使用している。	毎食、喉越しが良いよう汁ものを付けたり、昼食時の果物やデザートの提供は入居者に好評である。誕生を祝う手作りケーキは季節感のある目でも楽しめるものであり、継続して支援されている。毎回、職員の工夫が窺われ、変わらぬ支援に期待したい。入居者の身体状況からエプロンを使用される方もおられるが、食事直前に付けてもらうなど職員間で検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	12月よりキッチン、調理専門の職員が入社され量やバランス、調理方法等に力を入れている。食事、水分量は毎日チェックをし、検食簿を使い、必要に応じ調理スタッフに報告、改善を求めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在2名訪問歯科を利用されている。歯の不具合時にはご家族に連絡し訪問歯科を利用されている。就寝前は義歯の方は全員外して頂き洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は尿意、便意があいまいな方でも個々のパターンに合わせて定期的にトイレへの声掛け、誘導を行い、トイレでの座位排泄を支援しています。座位の安定を保てるよう足踏み台を設置しています。	自立でトイレに行かれる方にも、継続できるよう見守り、トイレ内の環境を整えている。殆どの方に声掛け・誘導により支援し、立位が困難な場合には2名での介助など安全面に配慮している。夜間はポータブルトイレやおむつ交換、パットの使い分けなど個別に支援し、排泄用品はホームで準備している。使用しない時間帯のポータブルトイレは、居室外で管理するなど、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品を提供している。畑で芋や大根を自ら育て収穫したものを調理し提供すると喜んで食べて下さる。トイレ座位時に腹部マッサージを行い必要に応じ看護師や主治医に相談し排便コントロールを図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望、体調や気分に応じ入浴の促しをしている。好みのシャンプーや洗身タオルを持ち込まれリラックスされる方もいます。シャワー浴希望の方も血行促進の為足浴を促し提供しています。	入居者の体調や希望などを確認し週3回程、午前を中心に支援している。足浴による血行促進や、夏場はシャワー浴も取り入れながら清潔保持に努めている。シャンプーなどはホームで備えているが、こだわりの物を個人で準備される方もおられる。広い洗い場や浴槽であり、職員は脱衣場をはじめ浴室の温度管理や湯温の冷めなどが無いよう十分配慮している。柚子を使った季節湯では、何回も楽しめるよう冬至の週は続けて取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも横になり休息が摂れるようにフロアには畳を設けています。安楽な姿勢が保てるようクッションやひざ掛けを準備してあります。居室で使用される寝具は定期的に洗濯を行い清潔保持に努め居ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に疑問点があれば薬ファイルに目を通したり、看護師や薬剤師に聞き理解するようにしている。また症状の変化についても看護師、薬剤師に確認し対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週2回のリハビリ体操や、職員と一緒に河川敷へスポーツの応援に行ったり、将棋や囲碁等行っている、季節時折のイベント、節分、運動会、クリスマス会、敬老会、誕生会等を行いケーキやジュースを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	神社の参拝、スーパーやコンビニでの買い物、清流高校のサッカーの応援、体育祭、文化祭、桜やアジサイ、コスモス等の花見は天候、体調を見ながら行っている。お盆、お正月の外出もご家族に協力を促しましたが積極的ではありませんでした。整骨院利用の方へも希望される時には予約の連絡をしている。	入居者の身体状況は様々であり、同敷地内の施設に出かけ、イベントへの参加や知人への面会、スーパー・近隣のコンビニ、施術院の利用など個別や数人で外出を支援している。また、花見や神社への初詣など、ドライブ兼ねた外出を季節ごとに計画し、天候や体調に配慮しながら実施している。遠出は入居者の負担も大きくなっており、敷地内の散歩やウッドデッキで日光浴を兼ねたレクリエーションなど、車いすの方も一緒に楽しめる機会を持っている。家族も買い物や施術院への治療など協力されている。	今後も地元高校との交流を兼ねた外出や買い物など地域資源を活用しながら入居者が戸外に出る機会を持たれることを期待したい。また、自宅への帰省なども困難になっていくことから、面会時に敷地内の散歩を楽しんでもらうなど、家族への働きかけを継続していきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時「何を買いに行くか」「いくら入れたか」バックの中を確認して外出しています。お金の管理が出来ない方は家族に承諾をして頂き職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より希望があれば電話し、職員にお願いされる時は代わりに対応している。手紙は本人に渡し代読も行っている。要望があれば、代筆を手紙を出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日フロア、廊下、玄関、手すりの掃除、換気を行い環境整備に努めています。壁紙製作、七夕飾り、クリスマス、お正月等季節感のある空間作りを行っています。物音や会話のトーンにも気をつけるようにしています。	食事やテレビの視聴など日中の活動の場であるリビングホールは、高い天井で開放感のある空間である。窓側の席からは遠くの山や敷地内に入る車の往来なども眺められ、入居者にとってお気に入りの場所である。団上がりの畳のコーナーは腰掛けて談笑したり、休憩スペースとして活用されている。ホーム内には外出をはじめ、日常の活動の様子を写した写真や季節ごとの作品が掲示されている。職員は季節や入居者の状況に応じて、室温管理に努め、感染症の時期は特に掃除や換気を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテレビ前にソファを2台配置し気軽に会話ができるような空間を作っています。窓際のテーブル席では風景や日光浴を楽しめる空間も設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様に了解を得てカーテンを開け外の景色を見たり匂いを感じて頂いている。山の景色を好まれる入居者様には山が見える居室に入居できるよう配慮をした。居室には家具や位牌や家族写真があつたりと本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている	居室で安心した時間が過ごせるよう、家具をはじめ馴染みの品の持ち込みを伝えているが、収納にはプラスチックケースが多い現状である。小物類は本人にとって使いやすい位置へ、ぬいぐるみなどをベッドの周りに置くなど個々によって安心できる配置が検討されている。季節外の寝具や衣類、排泄用品などは押入れへ収納されており、居室内はスッキリとした空間である。室温管理も季節やその方に応じて対応しており、入眠や起床時間に合わせてエアコンを入れる等細やかな対応である。山の見える居室への入居希望などもその時点で可能な限り対応している。	衣替えなど職員を中心に行なわれている。今後も衣類や寝具の損傷の確認などを含め、家族の協力を得ながら居室環境の整備に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の残存能力を維持向上できるよう配慮した方法を常に念頭に置き「トイレ」「ゆ」等の表示を行い、通路には物を置かない様、整理整頓を心がけています。		